

平成 22 年度事業報告

平成 22 年度は、山寺芭蕉記念館では利用料金制度が導入され、最上義光歴史館では入館料無料になって 2 年目となる。

山寺芭蕉記念館では企画展「芭蕉と江戸時代」を行い、芭蕉が生きた時代背景を併せて観覧できる展示を行い 6,003 名の入館者があった。更に 22 年度で 4 回目となる「市民企画展」も開催された。一方、第 41 回芭蕉忌俳句大会では投句数が 26%増加した。また、英語俳句大会も 2 年目を迎えたが、462 句の投句があり、その内、外国人の部では 53 人から 100 句の投句を得た。

最上義光歴史館においては市民参加の事業として引き続き実施した企画展「市民の宝モノ 2011」や常設展示の「鐵の美[kurogane]2010」「最上家の手紙と戦国事情」などを通して歴史資料の鑑賞の機会の増加に努めた。教育普及事業では、こども講座を学校に出向いて開講する出張講座に変更。歴史館サポーターとタイアップして 22 年度は市内の小学校 2 校で試験的に実施し好評を得た。

両館とも施設の特徴を生かした事業運営を進めたが、3 月 11 日に発生した東日本大震災の影響により山寺芭蕉記念館は延 16 日の、最上義光歴史館では延 13 日の臨時休館となり入館者を減らすこととなった。そうした結果、それぞれの入館者は前年度対比で山寺芭蕉記念館では 11.7%の減少、最上義光歴史館では昨年度の大河ドラマ「天地人」効果とのギャップもあり 53.9%の減少となったが、20 年度との比較では約 24%の増加であった。

その他、平成 22 年度山形県ふるさと雇用再生特別基金事業費補助金交付における嘱託職員の雇用によって両館に関わる解説等の中国語訳作業が行われ、外国人来場者の利便の向上に資した。

平成 22 年度事業実績報告書

1. 事業計画による主催事業について

山寺芭蕉記念館事業

(1) 展示事業

① 企画展「雛人形の歴史展」(平成 21 年度からの継続事業)

山形市内に伝わる江戸時代の雛人形を中心に展示し、日本文化の美を考え、物資物流や、当地域に影響を与えてきた文化伝播の事情と、芭蕉がふれた文化の一端を理解する一助とした。

○開催期間 2月17日(水)～4月11日(日)(4月の延日数:11日間)

○入館者数 596名 ※4月中の延入館者数

② 常設展

「芭蕉の生涯」「江戸時代の絵画」「もののけで見る文学・美術」「芭蕉周辺の人々」と題し、収蔵資料の中から展示を行った。

○開催期間 4月15日(水)～10月11日(月・祝)(延175日間)

○入館者数 15,774名

③ 企画展「芭蕉と江戸時代」

俳人・松尾芭蕉を生んだ江戸時代の町、その社会や芸術・文化、更に旅の様相はいかなるものであったのか、芭蕉の文学と共に再考を試みた。それにより芭蕉の感性を育んだ環境やその背景を探り、芭蕉の文学を理解する一助とした。

○開催期間 10月14日(木)～11月28日(日)(延46日間)

○入館者数 6,003名

○関連事業 ギャラリートーク 11月3日(水・祝)

講師 山本陽史氏(山形大学教授)

参加者 23名

11月14日(日)

講師 相原一士(当館学芸員)

参加者 16名

④ 常設展

「芭蕉の生涯」「芭蕉周辺の人々」と題し、収蔵資料の中から展示を行う。

○開催期間 12月1日(水)～12月12日(日)(延11日間)

○入館者数 176名

⑤企画展「市民企画展」

市民の団体から発案された企画によって、本館の収蔵品と併せて市民の収蔵品を展示する。企画は募集の上、応募企画の中から選考することとした。

募集を行なった結果、絵画表現研究会の「絵画表現研究会 作品展」を開催した。

○開催期間 12月16日(木)から1月23日(日)(延28日間)

○入館者数 600名

⑥常設展

「芭蕉の生涯」「正岡子規と近代俳句」と題し、収蔵資料の中から展示を行った。

○開催期間 1月26日(水)～2月20日(日)(延23日間)

○入館者数 616名

⑦企画展「お雛さまの歴史と美」

山形市内に伝わる江戸時代の雛人形を中心に展示し、日本文化の美を考え、物資物流や、当地域に影響を与えてきた文化伝播の事情と、芭蕉がふれた文化の一端を理解する一助とした。

○開催期間 2月24日(木)から4月10日(日)

(2～3月は延20日間。本来36日間であったが東日本大震災の影響により延16日臨時休館したため。)

○入館者数 982名 ※3月31日迄の集計

○学芸員によるギャラリートーク 2月27日(日) 8名

3月21日(月・祝)

東日本大震災の影響で臨時休館したため中止

○傘福の「つり雛」作り教室 3月6日(日) 講師 安部英子氏(お雛さま研究家)
参加者 69名

(2)普及啓発事業

①第53回全国俳句山寺大会

俳句の普及と振興をはかるため、山寺文化保存会と共催し、名勝山寺の地で、芭蕉が訪れた時期に句会を開催した。

○日 時 7月11日(日)

○選 者 辻 桃子氏、小澤 實氏、柏原眠雨氏、西村和子氏、藤木俱子氏、
松浦俊介氏、阿部月山子氏、三井量光氏、鈴木正子氏、矢萩天崖氏

○事前投句 1,162句

○大会参加者 102名

②第2回山寺芭蕉記念館英語俳句大会

英語俳句を通して俳句の更なる交流促進、俳句文化の国際交流をはかるとともに、英語教育や文化、観光振興に寄与することを目的とした。

- 審査委員 飯島武久氏（国際日本文化研究会会長）、
大場 登（当財団理事長）
コリン・レニー氏（山形県国際交流協会国際交流員）
- 投句数 462句（306名）

③第20回山寺芭蕉記念館 文化セミナー

広い視野で日本文化と歴史を見つめる講座を開設し、市民文化の向上をはかる。
今年度は「日本文化の深層 ―よく知る国の知らぬ貌―」と題し行う。

○内容等

- 7月31日（土）講師 山本陽史氏 山形大学教育基盤院教授
演題「井上ひさしの江戸と東北」 参加者 62名
- 8月8日（日）講師 鎌田東二氏 京都大学こころの未来研究センター教授
演題「宗教と日本人 - 日本文化の中の宗教 -」 参加者 51名
- 8月21日（土）講師 入間田宣夫氏 東北芸術工科大学教授
演題「平泉文化の意味 - 中世のかたちを模索して -」 参加者 47名
- 8月28日（土）講師 田口洋美氏 東北芸術工科大学教授
演題「東北世界と宮崎アニメ - 磐司磐三郎から「もののけ姫」まで -」
参加者 37名

④第41回芭蕉忌俳句大会

俳句の普及と振興をはかるため、山形県芸術文化会議、山形県俳人協会と共催し、
山寺の地で、芭蕉を偲び句会を開催した。

- 開催日時 11月6日（土）
- 選者 松浦俊介氏、阿部月山子氏、三井量光氏、鈴木正子氏、
黒沢道子氏、小関貴美子氏
- 投句数 610句
- 大会参加者 48名

⑤芭蕉を偲んで投句しよう〔年3回〕

俳句の普及をはかるため、山寺芭蕉記念館内に投句箱を設置し、年3回に分けて
投句選を行った。

- 期間 4月から7月迄、8月から9月迄、10月から3月迄
- 投句数
及び選者 4月から7月 52句 選者 松浦俊介氏（山形県俳人協会会長）
8月から9月 42句 選者 鈴木正子氏（山形県俳人協会幹事長）
10月から3月 41句 選者 庄司りつこ氏（山形県俳人協会名誉会員）

⑥山寺芭蕉記念館子ども俳句道場

「芭蕉を偲んで投句しよう」の小中学生版とし実施した。俳句を通して松尾芭蕉
や山寺、山寺芭蕉記念館への理解を深める機会とした。

- 期 間 通年
- 投句数 68 句
- 選 者 武田菜美氏（山形県俳人協会常任幹事）

⑦ ITに係わる企画と情報管理

インターネットを媒体として、ホームページを活用して様々な情報を発信した。

- アクセス件数

22年度(平成22年4月1日～平成23年3月31日)のアクセス件数

回 数	167,059 件 (1日/459件)
人 数	40,859 件 (1日/112件)

⑧ 『芭蕉記念館だより』〔年1回〕

事業の予告や報告、芭蕉及び「奥の細道」に関する情報の公開を行ない山寺芭蕉記念館の活動の周知に役立てた。

(3)茶席事業

① 「市民茶会」開席

山形茶道宝紅会の協力により、抹茶又は煎茶の呈茶を行い、茶道文化の啓蒙普及を図るため実施した。

- 期 間 4月～11月の土曜日、日曜日

- 実施状況

実施月	日 数	利用者数 (人)
4 月	3	2 0 7
5 月	4	1 7 3
6 月	3	1 9 7
7 月	2	1 2 4
8 月	2	1 2 9
9 月	5	5 4 5
10 月	5	3 7 7
11 月	3	2 0 7
合 計	2 7	1, 9 5 9 (2.6)
前年度	2 8	1, 9 0 9

() 内は前年度同期比 (%)

② 「茶房 芭蕉堂」開席

抹茶の呈茶を常時行い、茶道文化に親しむ一助とするため実施した。

12月から3月までは受付ロビーで開席。

○期 間 4月～3月（市民茶会開催日等除く）

○実施状況

実施月	日 数	利用者数（人）
4 月	2 0	1 4 3
5 月	2 1	3 0 2
6 月	2 0	2 0 9
7 月	2 4	1 7 8
8 月	2 4	2 7 2
9 月	1 6	1 0 1
10 月	2 3	2 9 0
11 月	1 9	3 2 5
12 月	1 8	2 7
1 月	2 3	1 7
2 月	2 3	6
3 月	1 5	5
合 計	2 4 6	1, 8 7 5 (△22.2)
前年度	2 8 4	2, 4 1 1

()内は前年度同期比(%)

③山寺感謝の茶会

山寺地区民に対し、平素から山寺芭蕉記念館の事業に理解と協力を頂いていることへの感謝の意を表して呈茶を行った。

○開催日 11月23日(火・祝)

○場 所 山寺芭蕉記念館 立礼席

○参加者 58名

最上義光歴史館事業

(1)展示事業

①企画展「市民の宝モノ 2010」(平成 21 年度からの継続事業)

山形市民を対象に、所蔵する「宝モノ」を募集して、歴史館の展示室に展示し、広く一般に公開する市民参加型の展覧会として開催。出品された「宝モノ」にまつわるユニークなエピソードなどを紹介した。出品者 18 名／出品件数 34 件

- 期 間 1 月 13 日(水)から 4 月 11 日(日) (4 月の延日数は 10 日間)
- 入館者数 667 名 ※4 月中の延入館者数

②常設展示 I 「鐵[kurogane]の美 2010 ～武士[mononofu]と日本刀～」

歴史館の収蔵刀剣を中心に、武将が所持した刀や藩のお抱え刀工など武士と関わりのある刀剣 14 振を展示、エピソードを交えながら紹介した。

- 期 間 4 月 13 日(火)から 7 月 11 日(日) (延日数は 80 日間)
- 入館者数 8,085 名

③特別公開「坂紀伊守像」

最上義光の重臣で長谷堂城主・坂紀伊守光秀の肖像画(山形県指定文化財 山形市・清源寺蔵)を、その命日(4 月 26 日)にちなんで特別公開した。

- 期 間 4 月 13 日(水)から 5 月 16 日(日) (延日数は 32 日間)

④常設展示 II

大坂城本丸仮御殿もしくは伏見城本丸御殿から移築された可能性が指摘されている山形城御殿の杉板戸と近年新たに発見された山形城の絵図 2 枚、平成 22 年 5 月に山形市に寄贈された「那須与一射扇図屏風(未完)」などを公開した。

- 期 間 7 月 13 日(火)から 10 月 11 日(月) (延日数は 80 日間)
- 入館者数 8,481 名

⑤常設展示 III 「最上家の手紙と戦国事情」

最上家に関わりのある手紙(書状資料)を中心に、最上義光や最上家家臣の人柄にも触れながら、戦国時代の風習や慣習、豆知識を紹介した。展示資料 16 点

- 期 間 10 月 13 日(水)から 1 月 10 日(月) (延日数は 64 日間)
- 入館者数 5,103 名

⑥企画展「市民の宝モノ 2011」

山形市民を対象に、所蔵する「宝モノ」を募集して、歴史館の展示室に展示し、広く一般に公開する市民参加型の展覧会として開催。出品された「宝モノ」にまつわるユニークなエピソードなどを紹介した。出品者 21 名／出品件数 38 件

- 期 間 1 月 12 日(水)から 4 月 10 日(日)

(1～3月は延55日。本来68日であったが東日本大震災の影響により延13日臨時休館したため。)

○入館者数 1,960名 ※3月31日までの集計

(2)普及啓発事業

①歴史講座「義光塾」

最上義光歴史館サポーターを対象に、最上義光や郷土の歴史について多角的に学習して、サポーターの養成とスキルアップを図った。

○日時と内容、講師、受講者数

8月23日(月) 10時から12時まで

「城絵図と最上城下 一新出の城絵図から」

市村幸夫氏(村山民俗学会事務局長) 受講者28名

11月22日(月) 10時から12時まで

「白鳥氏と最上氏について」

鈴木勲氏(河北郷土史研究会長) 受講者26名

1月15日(土) 14時から16時まで

「古代の出羽国」

吉田欽氏(山形県立米沢女子短期大学教授) 受講者24名

※3月19日(土) 東日本大震災の影響で中止

「山形の歴史を語る会 第1回テーマ『最上義光とやまがた』」

片桐繁雄氏(上山市立図書館長/元最上義光歴史館事務局長)

○会場 最上義光歴史館研修室

②歴史講座「郷土史講座」

一般市民を対象に最上義光や郷土史、文化財などについて学習して郷土の歴史と文化に対する理解を深める一助とした。

「最上義光と文学」

文化人・最上義光が得意としていた連歌の基礎知識や義光の作品の解説、義光と関わりのあった文化人の紹介など、義光の文学活動について幅広く学習した。

○日時と内容、講師、受講者数

2月19日(土)「連歌史の中の義光」

名子喜久雄氏(山形大学地域教育文化学部教授) 受講者47名

2月26日(土)「最上義光の文学①」

片桐繁雄氏(上山市立図書館長/元最上義光歴史館事務局長) 受講者49名

※3月12日(土)「最上義光の文学②」

東日本大震災の影響で中止

片桐繁雄氏(上山市立図書館長/元最上義光歴史館事務局長)

毎回13時30分から(約2時間)

○会場 山形市中央公民館 研修室 3

③こども講座「ヨシアキ☆すく〜る!? -山形の殿様、義光公を知ろう!-」

最上義光歴史館サポーターの会「義光会」とタイアップして、山形市内の小
学校に出向き、最上義光を中心に郷土の歴史や文化を学ぶ機会をつくり、郷土
史に対する関心と理解を深め、愛郷心を育てる一助とした。

○日時、実施校、学年、受講者数

2月9日(火) 山形市立第四小学校 四年生 38名

3月2日(水) 山形市立第一小学校 四年生 39名

毎回約45分

○講師 最上義光歴史館サポーターの会「義光会」

(3)調査研究事業

①最上家関係資料・史跡調査〔継続事業〕

県内外に残る最上家等に関わる文書資料や文化財・史跡などの調査研究を進め、
写真撮影等による記録保存及び目録作成、複写等の資料整備を行う。

(4)その他の事業

①ITに係わる企画と情報管理

インターネットを媒体として、ホームページを活用して様々な情報を発信する
とともに、企画から物販まで幅広く展開する。

○一般ページのアクセス件数

回数	491,258件 (1日/1,346件)
人数	119,958件 (1日/329件)

○こどもページのアクセス件数

回数	14,030件 (1日/38件)
人数	4,238件 (1日/12件)

受託事業

(1) 外国語による展示解説等整備事業

山寺芭蕉記念館及び最上義光歴史館来館者への外国語による施設案内誘導表示・展
示解説キャプション等の作成を行った。(ふるさと雇用再生特別基金事業費補助事業)

具体的な内容としては山形市在住の中国人女性1名を採用し、中国語解説キャプシ
ョン約20枚の作成、中国語案内解説シート7種類の作成、中国語圏の入館者の案内
解説等の業務を行った。